



青森県議会 ニュースレター

2023
夏号



クルーズ船 外国人観光客を、 日本茶でおもてなし

青森港新中央埠頭に入港した、クルーズ船の外国人観光客を、日本茶でおもてなしをする交流事業が初めておこなわれました。

6月23日に寄港したインシグニア号(30,277トン・マーシャル船籍)の乗客の皆さまに、クルーズ船ターミナルビルで抹茶を味わって戴きました。

県内観光業の関係者よりご提案戴いた「日本茶でおもてなし」を、社会貢献事業を積極的におこなっている(株)伊藤園青森支店(大友玲支店長)の皆さまにご協力を戴き実現することができました。

国際観光港湾都市としての、青森市の魅力づくりに、引き続き取り組んでいきたいと思っております。



青森県議会が新体制で出発

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
青森県議会議員

いぶき信

伊吹 信一プロフィール

会派 公明党所属
建設委員会委員
新幹線・鉄道問題対策特別委員会委員
青森県防災士会相談役 防災士
2級知的財産管理技能士 経営士
温泉観光士 温泉保養士
温泉入浴指導員
<http://www.ibukista.com/>





重要物流道路の冬期安全対策現地調査

青森市の中核工業団地入口交差点へ続く県管理道路の安全通行の課題について、上野町会役員から要望をお聞きする現地調査をおこないました。

当該路線は県の重要物流道路に指定されていますが、冬期間には吹雪による視界不良で、大型トラックによる交通事故が毎年発生しているとのこと。小学校へ集団通学している児童や、中核工業団地へ徒歩で通勤している方もいる為、通学路確保や歩行者の安全対策も課題として指摘されました。地元の上野町会から、安全通行のための防雪柵設置と歩道除雪が要望されました。

現地調査をおこなった県とも連携し、要望実現に取り組んで参ります。



省エネ家電買い替え促進事業始まる

キャンペーンロゴマーク



電気料金の値上げによる家計負担の軽減支援対策として、青森県が「省エネ家電買い替え促進事業」を始めました。

エネルギー消費量の削減が期待できる家庭電化製品への買い替えを通じて、家庭の電気料金負担軽減に繋げ、CO2排出量削減を図るものです。

家電の省エネ性能に応じて、キャッシュレスポイントが付与され、県内に本店がある事業者から購入する場合は2倍のポイントが付与されます。

私が3月28日に県知事に7項目にわたり要望した物価高騰対策の一環として、プロパンガスや特別高圧電気価格高騰対策支援に続いて実施されることになりました。引き続き家計や事業者の負担軽減に取り組んでいきます。支援内容の詳細は、青森県庁ホームページで「省エネ家電あおもり」と検索してご確認ください。



キャンペーンキャラクター「eコネちゃん(えこねちゃん)」

(1)省エネ性能が一定水準以上の家電の買替え支援【新規】

買替える家電の省エネ性能に応じてキャッシュレスポイント等を付与する。

対象品目	省エネ性能水準 (15年前からの削減率)	容量・能力	省エネラベル	ポイント付与※
①エアコン	20%以上	2.2kw以下	★★★★~	20,000
		2.5~2.8kw	★★★★~	25,000
		3.6kw以上	★★~	30,000
②冷蔵庫	50%以上	150~350ℓ	★★~	5,000
		351~450ℓ	★★★★~	15,000
		451ℓ~	★★★★~	20,000
③LED照明器具	55%以上		★★★★~	1,000
④テレビ	60%以上	40型未満	★★★★~	5,000
		40型以上	★★~	10,000

※県内に本店等がある事業者から購入した場合は2倍のポイントを付与

(2) (1)の水準に満たない省エネ家電・LED電球等の買い替え支援【見直し】

(1)の水準に満たない省エネ家電を買替えた者を対象に、抽選で県内宿泊券1万円分が当選(100名)する仕組みを設ける。



高度被ばく医療拠点 施設整備を要望

国立大学法人弘前大学は、平成27年に「高度被ばく医療支援センター」、「原子力災害医療・総合支援センター」として国に指定されてより、北海道と東北の原子力災害拠点病院に必要な診療支援や専門家の派遣等をおこなう原子力災害医療体制の拠点として重要な役割を担っています。

全国的に見ても原子力エネルギー関連施設が集中している北海道・東北において、最重症患者を受け入れるなど緊急時対応拠点として、被ばく医療支援の中心的な役割を果たすこととなります。また原子力災害に留まらず、感染症パンデミック時の大規模自然災害等の複合災害発生時の対策拠点としても機能を発揮することが求められます。

このため弘前大学関係者の方々と財務省を訪れ、拠点施設として「(仮称)弘前大学高度被ばく医療支援研修センター」整備を計画的に進めるための財源確保を秋野公造財務副大臣に要



原子力災害医療体制強化を秋野財務副大臣に要望

望しました。

私は平成27年にも弘前大学と連携し、国の指定に尽力しました。原子力災害医療体制と複合災害医療体制整備に引き続き取組んで参ります。



県政への若者参加と 県内定着について大学で 意見交換

青森県の推計人口は本年7月1日時点で18万8千人と報告されています。毎年1万人程度が減少し、全国平均より早いペースで減少を続けています。

国立社会保障・人口問題研究所によると、2045年には82万4千人になると推計されています。令和4年の出生数は5,985人で、令和3年の6,513人より528人減少しました。令和4年3月高等学校卒業生数は10,337人で、大学進学率は52.1%です。

活力ある青森県づくりには、青森県のこれからを担う若者の県内定着が重要課題です。このため青森大学と青森中央学院大学を表敬し、学長や理事長等と青森県政への若者参加と県内定着について意見交換しました。私が提案し平成28年度から始まった高校生模擬議会は、関係者の協力のもと7回を数え定着しました。県内の人材育成と若者の県内定着を図るため、大学生の県政参加にこれまで以上に尽力していきたいと思っております。



県政への若者参加について澁谷青森大学長と意見交換



青森中央学院大学の石田理事長と意見交換



みちのく有料道路 ETC12月供用開始

建設委員会で、みちのく有料道路のETC供用について質問しました。青森県道路公社が管理しているみちのく有料道路で令和3年度から整備が進められているETC化は、本年12月から供用が開始されることが明らかにされました。

これまでの回数券が廃止される一方、ETCを利用した場合、一律10%の料金割引制度が始まります。

全国のETC利用状況から、みちのく有料道路を利用する約8割がETCを利用すると試算され、料金所の渋滞が大きく緩和される効果が見込まれています。

ETC設備



ETCレーンの設置イメージ



青森方面

七戸方面

沖館橋側道橋完成!

令和2年度から工事がおこなわれてきた「沖館橋側道橋」がこのほど完成しました。

国道280号に架かる沖館橋は、歩道が狭くカーブと傾斜があるため、自転車や歩行者の安全対策を求める青森市西部第1区連合町会(石戸尚会長)等からの要望を受け、海側に歩行者専用の側道橋の整備を進めてきたものです。工事期間中ご協力を戴きました皆さまに、感謝申し上げます。



小国峠区間バイパス 整備進捗状況を確認

建設委員会で、主要地方道今別蟹田線小国峠区間のバイパス整備に向けた検討状況を確認しました。

令和2年度に今別町と外ヶ浜町と共同で勉強会を立ち上げ、これまで計4回開催しています。小国峠区間のバイパス整備を進める際、旧道となる現在の小国峠区間を両町へ移管する同意が得られたことから、今年度は9月から勉強会を3回開催し、次のステップとして概略設計を進めていきます。令和6年度以降、概略設計で明らかとなる課題を踏まえた修整を経て、予備設計や鉄道管理者との計画協議等へ検討を進める予定です。小国峠区間の安全通行を求める地域住民の切実な願いを叶えるため、小国峠区間の早期バイパス整備に尽力して参ります。



ルート検討のため、3D模型を作成

第10回 青森レインボーパレードに参加

6月25日に青森駅前公園をメイン会場に、「第10回青森レインボーパレード」が開催され参加しました。

青森県内外から209名が参加し、生きづらさを感じることがない帰れる故郷にしようと、レインボーフラッグを手に駅前通り商店街をパレードしました。

6月23日には、国のLGBT理解増進法が施行されました。政府は基本計画と運用指針策定を進めることとなります。国の動向を注視し、青森パートナーシップ宣誓制度の充実に努めて参りたいと思います。



青森県議会 公明党
県議会議員 伊吹信一

TEL 017-734-9816 / FAX017-722-6148 / URL <http://www.ibukista.com/>

発行者・連絡先



@ibuki_shinichi



@IBUKISHINICHI



@shinichi.ibuki



@xvj9802x